

## 教育民生常任委員会 摘 録

1. 開催日 令和6年2月1日(木) 第2委員会室
2. 出席委員 五島誠委員長 前田智永副委員長 赤木忠徳 横路政之 宇江田豊彦 藤木百合子
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 橋本和憲議会事務局主任主事
5. 説明員 なし
6. 傍聴者 なし
7. 会議に付した事件
  - 1 所管事務調査について
  - 2 その他

-----  
午前10時1分 開 議

○五島誠委員長 ただいまより教育民生常任委員会を開会いたします。ただいまの出席委員は6名です  
ので、直ちに会議を開きます。

### 1 所管事務調査について

○五島誠委員長 本日は、協議事項、所管事務調査について、先般、今月の頭に広島県教育委員会、先週は宮城県に行きました。皆さん、大変お疲れさまでした。まず、一旦ここでまとめをさせてもらって次に進みたいと思います。よろしく願いいたします。進め方としては、1つつさせてもらえればと思います。まずは、広島県教育委員会に行ったまとめをします。参考になった事項や課題あるいは問題点や感じた事項など、委員の皆さんから積極的に御意見をもらって、それをまとめたいと思います。よろしく願いいたします。藤木委員。

○藤木百合子委員 まず、広島県教育委員会の取り組み。広島県もきちんとされているなと思ったのと同時に、広島県としては特例校をつくる予定はないという話を聞いたときは、県に1校つくっても通って来られるわけではなく、遠方の方は利用できないなという思いで、なるほどなど。それよりは、それぞれ身近な学校を支援校という形で支援する形がいいなと広島県教育委員との懇談では思いました。後に考えが変わったのですが、そのときはそう思いました。

○五島誠委員長 暫時休憩といたします。

午前10時4分 休 憩

-----  
午前10時7分 再 開

○五島誠委員長 休憩前に引き続いて会議を再開いたします。横路委員。

○横路政之委員 県は特例校をつくる気がない。今のSSRやSCHOOL“S”をずっと行っていく

ということで、残念なところがあったのですが、管内視察の項に入るかもしれないのですが、庄原市で今この不登校支援センターがどこまで機能しているのかということと、SSRは総領中学校で行った以降は多分していないと思うので、そういった流れが今残っているかどうか、単発で行っただけなのかどうなのかも調べてみないかなと思いました。

○五島誠委員長 他にありますか。赤木委員。

○赤木忠徳委員 SCHOOL “S” を東広島につくって、確かに効果的な情報を得たり経験をしているのですが、それを県北の子供たちは受けることができない。それを広島県はどう生かしてくれるのかなというのが疑問に残ったので、視察に行って、市で独自の対策を打っていくのがいいのではないかと強く感じました。

○五島誠委員長 他にありますか。副委員長。

○前田智永副委員長 SSRは、指定を受けないと自身に当たるものにかかわることができないということで、昨年、総領中学校が指定していただいていたのですが、ずっと続けて受けられるものではなく、子供たちがその年だけ不登校になるかということそうではないので、継続的な取り組みが必要だと思います。SCHOOL “S” について、県も認識しておられましたが、243名が登録していても、結局は通える子やオンラインのみで、県北、庄原市で活用していくのは非常に難しいということで、市独自で何かしていかないといけないのかなと思いました。

○五島誠委員長 他にありますか。宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 SSRの取り組みは指定された学校だけの取り組みにしてはならない。要するに、どの学校でも同様の取り組みができなければならないということで、そういう教育の在り方についていかに共有をしていくのか。そして、全ての学校で同様の取り組みができるということがまず大切だということを痛感いたしました。そういう意味で言えば、大きな視点から見たときに、広島県教育委員会がされているようにこの取り組みを普遍化することによって不登校児童生徒の対応をしていこうという基本的なスタンスは間違いではないと思います。ただ、それがまだ局地的な取り組みにしかかっていないのが大きな課題であると思います。本市においても、昨年は指定をされていたがことしは指定がないということで、全ての学校で同様の取り組みが共有されているかが大きな課題になると感じています。

○五島誠委員長 他にありますか。よろしいですか。まとめとしては、まず、県のスタンスは、特例校をつくるのではなく、SSRやSCHOOL “S” などを使ってほしいというスタンス。その中で、SCHOOL “S” については、距離的な部分もあって本市の子供たちが通うのはなかなか難しい。であれば、どうするのかということで、市として独自にどう対策をしていくのかをもっと考えていかなければいけないというのが1点。それから、先ほど宇江田委員からあったように、SSRなどの取り組みもありますが、指定を受けたそのときだけ取り組みができるのではなく、あるいは、その学校だけが受け入れるのではなく、そうした不登校への対策、個人に寄り添った教育環境をどのようにつくっていくのかについては、さらに市として、普遍的並びに継続的に行っていかなければならないということでまとめます。それでは、引き続いて、先ほどと重複するところもあるかと思いますが、提言、庄原市の施策にどのように生かしていくかについて、さらに付け加えがあればお伺いします。よろしいですか。それでは、広島県教育委員会については先ほど言ったようにまとめます。続いて、白石南小中学校並びに富谷中学校西成田教室の視察のまとめをします。まず、参考になった事項、課題、

問題点と感じた事項についてお伺いします。宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 白石市南小中学校ですが、この事業だけに限らず、今、学校教育が抱える課題を総合的に捉えて本取り組みを実施されているのが特徴的で、教職員が置かれている多忙な状況をこの事業を通していかに軽減していくのか、あるいは、子供が抱えるさまざまな、今日的なストレスをどういう形で捉えるかという非常に相対的な視点を持った施策、運営をされているのを非常に痛感いたしました。私個人の思いですが、施策推進に当たっては、政治的な視点ではなく、本当に教育行政が独立した機関としての機能を果たしているということを2点目に強く感じたところです。

○五島誠委員長 他にありますか。赤木委員。

○赤木忠徳委員 白石市ですが、教育長が今の子供たちからの警鐘であると強く訴えられていました。ということは何かと言えば、不登校はどの児童生徒にも起こり得るものであること。それから、不登校ということで問題行動であると受け取らないこと。登校という結果のみを目標としないこと。不登校児童生徒に配慮しつつ、社会で自立することを重要視すること。社会全体で向かうべき問題と捉える形で、どこの子供たちでも、どこの学校でもこういうことが起こってくるのだと。新しい教育の在り方を全体的に考えていく必要があるという考え方をされていたので、非常に感銘を受けました。それと、ふるさと納税にしても、特例校をつくったことによって1億円以上の応援があったということは、その試みに対して他市からも非常に応援をしていると。それともう1つ、他市から移住をしてくる家庭がふえているということは、教育の姿勢に対して他市からも共感を得ているということだと思います。それと、富谷市ですが、結局は市長、教育長の強力な行動力によって開設ができたわけです。その中で、教育長が25歳のときの姿を想像していると。子供たちが学ぶスピードはめいめいではあるが、その子供たちが25歳のときに地域に貢献してくれることを想像してわくわくしていると話されたことに対して、今を捉えるだけではなく、将来に向かってこの子供たちがどうなっていくかを想像されているということについて、非常にしっかりと捉えられているなと感じました。

○五島誠委員長 他にありますか。横路委員。

○横路政之委員 富谷市も白石市も、両校とも個々の児童に寄り添うという当たり前のことを真剣にされている。白石市は部外者が訪問しても児童が動じない。これには少し驚きました。富谷市はこらえてくれという空気感で、どちらがどうだということもないのですが、白石市のほうが大したものだなという感じはしました。両校とも市長と教育長がタッグを組まれていると強く感じました。片一方があまりやる気がないとかそういうのは感じませんでした。これが大事な点かなと感じて帰りました。

○五島誠委員長 他にありますか。

○藤木百合子委員 両市とも教育支援センター、学校、特例校とかが連絡を密に取り合いながら、この子に合った教育場所はどこかをカウンセラーやいろいろな職種の人が常に話し合いながら、その子に提言というかアドバイスをして、どこで学べば学びやすいかを常に考えておられる姿勢がすごいなと思いました。庄原市はその辺はどうなっているのかなと、自分の住んでいる市の現状をしっかりと勉強しなくてはいけないと感じさせられました。両市とも非常に斬新な取り組みをされていて、富谷市も地域のコミュニティセンターをうまく活用して、地域の人たちとも触れ合えるよう同じ施設を使っているところがすごくいいなと感じました。白石市のほうは、小中一貫として不登校に本当に真摯に取り組んで、学校の先生たちも特例校で一貫して教育をしていくというか、掛け持ちせずしておられるのはすごいなと感じました。

○五島誠委員長 他にありますか。前田副委員長。

○前田智永副委員長 富谷市は分校という形なのと、宿泊施設やコミュニティセンターが一緒に施設の中にあるところが特徴的だなと思いました。そのことによって子供たちにあらゆる手段で寄り添いの形ができる可能性を感じたし、分校ということで、本校からの教員の派遣といえますか、教員に行き来をしてもらって一緒に学びができるということで、実際に本校に戻られた生徒もおられると伺ってなるほどなと感じました。白石市は小中一貫校という形で、私は初めて見たので、実際にできるのだなと、可能性をすごく感じました。子供たちが自分たちで予定をつくったり、教科の内容も考えておられて、オープンスクールなども3回程度されているとのことで、入ってこられる方もすごく身近に感じられるし、保護者も安心してお任せできる形なのかなと感じました。

○五島誠委員長 他にありますか。よろしいですか。上がっているトピックとして幾つか上げられると思いますが、まずは不登校が誰にでも起こることであるということ念頭に置きながら、つまりは、不登校対策というのは不登校に限らず教育現場のさまざまな課題も解消しようと動かれるということではわかりました。そうした中で、特に子供たちに、それぞれ個人に寄り添って、誰にでも起こることだということを踏まえて選択の余地があるということが1つ。また、学校、支援センター、特例校、さまざまな機関が連携することが大切だということがあります。また、特徴的なところとして、地域とのつながりというか、そうしたものを、カリキュラムの中もそうだし、あるいは、白石市は開かれていますよね。外部の方が来られてもオーケーという形で。そうした地域に開かれた施設だということも特徴的なのではないかと思います。もちろん富谷市も、コミュニティセンターとシェアをされているということがあるので、そうしたことも言えるのではないかと思います。また、これほどに限った話ということではないので、そうした取り組みをすることによって、ふるさと納税あるいは他市からの移住の検討、共感の声という形で広がりがあることもわかりました。大体このくらいのところでまとめたいと思います。よろしいですか。それでは、最後に、本市の施策に対しての提言などがあればお伺いします。横路委員。

○横路政之委員 白石市のパターンは1年でつくったと言われていた。だから、やってやれないことはないのだなと。やる気の問題です。本市でするとなると、先生がいないとか、専門の人がいないという話になるのですが、ここは普通の先生がしながら勉強してスキルアップをしていったところがあるので、白石市の例を参考にしてみてもしてみるべきだと思います。視察がものすごい数あったのですが、来られると思います。

○五島誠委員長 他にありますか。赤木委員。

○赤木忠徳委員 生徒児童、保護者にとって、本当に毎日がつらくて悩んでおられるのを感じて、庄原市も、100名前後いる中で、その3割だけでも救う手立てをするために白石市や富谷市の試みを勉強して、庄原市でもしてみようという意識を持ってもらいたいなと思いました。それと、もう1つ、白石市の場合は人口が減っている、庄原市と同じような状況で、財政難で県費で行ったこともあり、その辺も含め、県に対してある程度強く要望をしていく必要があるなと感じました。

○五島誠委員長 藤木委員。

○藤木百合子委員 特例校がいいのか各学校で教室のようなものをつくっていくのがいいのかが非常に把握しにくいところではあるのですが、いろいろな学びの場があるというか、1つだけではなく自分の居場所を見つけるいろいろな条件を提示できればいいなと感じました。特に、庄原市の場合は、非

常に広い地域に広がっている条件をクリアするということで、どのようなものがあるのかを検討しながら進めていけたらなと思いました。

○五島誠委員長 他にありますか。前田副委員長。

○前田智永副委員長 どちらの学校も登校手段としてスクールバスを準備されています。本市は面積もすごく広いし、それぞれの町から学校に向けてスクールバスが配置できるかという、実際、厳しいと思います。両学校とも途中登校しても途中帰宅してもいいという形をしっかりとっておられて、実際、視察中に今来ましたという子供たちもいたし、保護者が一緒に登校してきている子もいました。そういった体制を、それぞれの子供たちや保護者に寄り添ってできる学校がいいのかなと思います。本市には教育交流教室「つばさ」もありますが、実際にそこで教育を受ける体制が整っているのか、開けた場所にあるかという少し難しい面があると思うので、行って学ぶところであるということをしかりと念頭に置いた体制が必要なのかなと思いました。

○五島誠委員長 宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 白石市と富谷市には非常に大きな違いがあると感じました。富谷市の場合には不登校生徒への対応に焦点を置いた取り組み、白石市の場合には今教育が抱える課題という捉え方をして事業を進めているということで、大きな差異があると思います。私が説明の中で本当に気になったのが、富谷市の場合、この子たちもこの地域を将来にわたって背負ってくれないといけない子供たちですという言い方をされました。逆に言えば、非常に特異に見ているというのをあらわしている表現だったと感じました。当然のことなのです。当然、この子たちも将来このまちを支えてくれないといけない。普通のことを特異に言われたので、そういう意味では非常に特異な教育のシステムを確立してリカバリーしているのだという思いが強いのかなと思います。ですから、私は、最初に広島県教育委員会を訪問させてもらったときのことも思うのですが、本市においても、こういう取り組みを各学校で普遍的に行っていく姿を今後も模索していかなければならない。立地的条件が大きく違うから、各学校において一人一人の子供の背景に触れた教育実践がなされるような形に仕立てていかなければならないということだと強く感じました。

○五島誠委員長 そのほか、よろしいですか。それでは、さまざまにありましたが、特に皆さんの意見で一致するところとしては、先ほど宇江田委員が言われたところが全てなのかなと思います。富谷市と白石市は大きく違うし、環境も違います。富谷市の場合には人口がふえている、全ての中学校がある程度の規模がある。そうした中で、ある種特異型という言い方がいいのか、不登校の子を特別視して、そうした子もきちんと守っていきましょうという形。一方で、白石市は我々の住む庄原市に近い、ある種地方型という考え方、不登校は誰でも起こるところを特に大きく念頭において、不登校だけではなく、そうした子供のストレスや教職員の多忙化といったことにまで踏み込んで、ある種普遍的なものにつくり上げていきたいという意思が感じられました。そうした中で、庄原市にとって、どうした形がいいのか。広い庄原市でもあるし、難しいのですが、学びの場であるとか居場所づくりといったものの選択肢ができるように検討していかなければいけないということ。白石市の場合は1年でつくり上げたということもあります。本気になって取り組めばできるということ。そして、専門家が多ければできるということではなく、住んでいる子供、保護者、そして教職員が一緒になって考えながら、庄原市もしていけるのではないかということ。あるいは、財政難もあるので、そうした財政的なことを考えても、広島県教育委員会あるいは広島県の協力もしっかりと、国もそうです。そうし

た協力があるうちにこうしたものを取り組んでいかなければいけないと思います。そのほか、小中一貫校でもできますし、スクールバスであるとか環境面のそうしたことも、庄原市版として、庄原市の選択肢をどのようにつくっていくのか、全体的に教育環境をどのようにつくり上げていくのかはもっと話し合うべきだと思います。また、そうした中で、一方では教育行政の独立性の担保も考え、そうしたところはしっかりと担保しつつ進めていかなければいけないということを意見としてまとめていきたいなど。今、文章が箇条になっていますが、ある程度まとめていきたいと思うので、こうした方向性でいきたいと思います。よろしいですか。そうした中で、今、皆さんからさまざまな提言等がありました。参考になった部分もあります。今度、まずは委員会の中でももちろんしていかなければいけませんし、直近に迫っている予算決算常任委員会の教育民生分科会の審査過程において、今回学んだことをしっかりと提言してもらったり、質疑の中で発揮してもらいたいと思います。特に、1回は市のレクチャーを受けましたが、ほかのさまざまなところ、あるいは、広島県教育委員会といった団体などから学びを得て、改めて本市はどうなのかなという部分も皆さんの中で疑問としてあると思いますし、私もあります。そうしたものを、まずは直近の予算審査の中でぜひとも発揮してもらいたいと思います。不登校者についてまとめをする段階でどうしても視察のまとめも一緒に報告をするようになるのですが、これはもう少し先になりそうなので、その前に我々はそうした場でしっかりと発揮していかなければいけないと思います。今さら私ごとやかく言うことでもないかもしれませんが、皆さん、何とぞそのようによろしくお願いします。それでは、行政視察のまとめについて、ほかにも皆さんから何かあればお伺いします。

○赤木忠徳委員　　今、議員の立場で庄原市をどうしていきたいといういろいろな意見が出たわけです。一緒に行った教育指導課長がどのように感じられたかも私は知りたい。そこをまとめの中に。教育現場の課長としてどういう考えを持たれたのかは聞いてみたいと思うので、それは直接ではなく、多分、教育長に対して報告書もつくっておられると思うので、そういうのをお願いしたらどうですか。

○五島誠委員長　　昨年、児童福祉課長と一緒に奈義町に行って、その後、その話も踏まえて少し意見交換の場を持たせてもらいました。それがどのタイミングでできるかは彼らのスケジュール的なこともあるので、そうしたものを踏まえ、いずれにせよ来年度すぐに施策に反映できるかと言うとそういうわけではないと思うので、3月議会の状況も鑑みながらそうしたものを設定したいと思います。報告書等については、我々にも見せてもらえるかどうかは内部のこともあると思うので、そうしたことも含めて調整します。そのほかにありますか。よろしいですか。それでは、この事項についてはこの程度にとどめておきます。まとめたものについては、また皆さんに見てもらえるようにするので、よろしくお願いします。続いて、それ以外の所管事務調査について、まず1点、先般来言っている市内小学校の管内視察ということで、特に今追っているのが永末小学校。それ以外にどこかというもあるので、この管内視察についてどうするかを少し調整します。スケジュール的なところもあって少し雑談になるかもしれないので、暫時休憩といたします。

午前10時42分　休　憩

-----  
午前10時59分　再　開

○五島誠委員長　　休憩前に引き続いて会議を再開します。休憩間に日程の調整をしました。管内視察については今月末を予定し、先方の都合を見ながら調整をします。それから、そのほかの所管事務調査についても、先般来言っている地域交通課については、一度、進捗状況のレクチャーを受けたいと思います。その日程については、来週の予定で調整します。皆様、予定をあけておいてください。そのほか、現在の所管事務調査について皆さんから意見があれば伺います。よろしいですか。次回の委員会ですが、2月8日、13時からの予定です。御参集をお願いいたします。それでは、本日の教育民生常任委員会を閉じます。

午前11時00分　　散　　会

---

庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

教育民生常任委員会

委員長